

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題

「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究：イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として」

平成 30 年度第 1 回研究会

日時：

平成 30 年 6 月 2 日(土曜日)午後 1 時 30 分より午後 6 時

平成 30 年 6 月 3 日(日曜日)午前 11 時より午後 4 時 30 分

場所：AA 研マルチメディア室 304

参加者：

近藤信彰 (AA 研所員), 阿部尚史, 小野浩, 後藤裕加子, 杉山隆一, 杉山雅樹, 高木小苗, 守川知子, 矢島洋一, 渡部良子 (AA 研共同研究員)

スケジュール：

6 月 2 日 (土) 13:30—18:00

13:30—15:00

渡部良子 (東京大学・非常勤講師)

「サフィー廟寄進地記録 Sarih al-Milk : その成立, 機能, 研究史」

「共同研究の構想・計画」

15:00—16:00

コメント：Sarih al-Milk の史料的可能性

阿部尚史 (お茶の水女子大学)・近藤信彰 (東京外国語大学 AA 研)

16:00—16:30 休憩

16:15—18:00 総合討論・研究計画

6 月 3 日 (日) 11:00—16:30

Sarih al-Milk 写本研究

11 : 00—12 : 30 Sarih al-Milk 諸写本の全容

13 : 30—13 : 30 休憩

13 : 30—16 : 30 Sarih al-Milk='Abdi Beg 版の読解とデータ抽出方法の
検討・作業計画

研究会報告：

今年度開始の本共同研究課題の第1回研究会を、6月2日、3日の2日にわたり開催した。この研究会は、本共同研究課題がイスラーム聖者廟の財産管理のあり方を示す重要な史料として研究するサファヴィー教団聖者廟サフィー廟（イラン、アルダビール）の寄進地記録（サリーフ・アルミルク）がいかなる史料なのかその全体像をとらえ、この史料からどのようにデータを引き出していくか、今後の共同研究作業の方針・分担を具体的に定めることを目指した。

第1日目、6月2日（土）は、まず代表の渡部良子（AA 研共同研究員・東京大学）が報告「サフィー廟寄進地記録 Sarih al-Milk」「共同研究の構想・計画」を行い、本共同研究の主旨と、研究対象となるサフィー廟寄進地記録の概要を説明した。近世イランのシーア派政権サファヴィー朝の起源であるサファヴィー教団の発展に関する社会経済史史料として主に利用されてきた寄進地記録が、聖者廟財産管理に関わる行財政・法・社会制度の史料として多様な情報・可能性を持つことを事例とともに示し、この史料を多分野の専門から改めて、包括的に研究する共同研究の意義・必要性を示した。

続いて、2名の共同研究員が、サフィー廟寄進地記録の研究可能性についてのコメントを行なった。阿部尚史（AA 研共同研究員・お茶の水女子大学）は、サファヴィー朝滅亡後・衰退期のサフィー廟財産管理に関する自身の研究の一端を紹介し、サファヴィー朝期に編纂された寄進地目録が後代ガージャール朝期にも廟の財産保全の根拠として利用され続けたこと、19世紀に改訂版が作成されたことなどを示し、聖者廟財産管理における寄進地記録の機能、また廟の盛衰に伴うその変化に注目することの重要性を明らかにした。近藤信彰（AA 研所員）からのコメントは、文書研究の立場から寄進地記録の位置付けを明らかにした。イスラーム法廷文書は保管、台帳記録、再発行、目録化など多様な経路により伝世するが、不動産権利を守るために関連証書・控えを集成した証書目録（サリーフ・アルミルク）はサフィー廟寄進地記録以外にもスーフィー教団、聖者廟、王族財産などで作られてきたことが、ガージャール朝期を事例に示さ

れた。これらのコメントにより、サフィー廟寄進地記録がイラン・イスラーム社会の法文書制度・慣行を反映し、長期に亘る聖者廟財産管理手段としての機能が観察可能な、重要な史料であることが改めて確認された。

報告・コメントを踏まえ、共同研究員全員により、膨大な寄進財産情報と関連法文書写しを含む寄進地記録を3年間の共同研究期間でどのようにデータ化していけるか、また各人の専門からどのようなアプローチで寄進地記録を研究していくか、今後の研究方針を議論した。

2日目、6月3日（日）は、2点のサフィー廟寄進地記録のうち初期16世紀のアブディー・ベク版の写本3点の画像を検討しながら、研究作業の具体的な方法について議論した。まずコロフォンやタイトルページ書き込みの解読から3写本の関係・成立経緯について討論し、主に使用する写本を決定した。さらに収録された寄進地・証書写しから一部サンプルを調査し、データ抽出の方法、作業の工程・分担について具体的な方針を定めた。また本年度・次年度の公開研究会のテーマ・構想についても話し合い、今後の共同研究期間の具体的な計画をほぼまとめることができた。

（渡部 良子）